

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	小城市立小中一貫校芦刈親瀾校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査結果において、全国・県の平均を下回り、学力の低さが課題となった。全職員の共通理解と共通実践による授業力向上と学習規律の定着、家庭学習の充実により、学力向上を図る。 小中一貫教育については、校内研として全職員での共通理解のもと取り組むことができた。小中の協力体制が整い、プロジェクト部会の取組と9年間を見通した学びの両面から小中一貫教育の充実を図ることができた。さらなる活動の工夫と保護者や地域への周知を丁寧に行っていく。 働き方改革については、依然として時間外勤務時間の上限を超える職員が多数いて課題が残った。行事や業務の見直し・精選と職員の意識改革をさらに進めていく必要がある。

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成 ～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～
----------	---

3 本年度の重点目標	①学力の向上 ④多様な活動を促進するための教育活動や働き方の見直し ⑦保護者・地域連携の推進 ②豊かな心の育成 ⑤小中一貫教育の成果の確認 ③健康な体づくり ⑥特別支援教育の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。 ・随時、進捗状況等を確認しながら、確実に実行を進め、達成者を増やしていく。	・1月時点でマイプランの成果指標を達成できた自己申告する教師は92%であった。マイプランを意識して取り組めたことが成果につながった。	A	・「昨年より向上している」ので、県平均に近づくように今の取組を継続してほしい。 ・成果指標の設定の仕方等で評価は変わる。前年度と比べてどうか、県平均と比べてどうか、実現可能な数値目標だけでなく、より高みを目指した目標を設定して取組をさらに強化するの適切かもしれない。	A	・「昨年より向上している」ので、県平均に近づくように今の取組を継続してほしい。 ・成果指標の設定の仕方等で評価は変わる。前年度と比べてどうか、県平均と比べてどうか、実現可能な数値目標だけでなく、より高みを目指した目標を設定して取組をさらに強化するの適切かもしれない。	学びプロジェクト
	○学習状況調査等における結果の向上	○学習状況調査等において、前年度の結果を上回る学年・教科を50%以上にする。	・前年度の学習状況調査分析結果を基に、課題解決に向けた授業改善を進める。 ・週末課題として、学習状況調査等に対応した問題に取り組ませ、解説や個別指導等の補充を充実させる。	・学習状況調査等において、前年度の結果より上回っている学年・教科は、69%(9/13教科)であった。しかし、ほとんどの教科で県平均より下回っているため、今後も学習状況調査における結果の向上に向けて取り組んでいく必要がある。	A	・「解き直しや解説など解答の取り扱いは丁寧」に。 ・コロナ禍以前に行っていたスキルタイムを実施するなどでは、読み書き計算の基礎学力の定着を図つてははいない。地域は積極的に応援をさせて頂きたい。	A	・「解き直しや解説など解答の取り扱いは丁寧」に。 ・コロナ禍以前に行っていたスキルタイムを実施するなどでは、読み書き計算の基礎学力の定着を図つてははいない。地域は積極的に応援をさせて頂きたい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童生徒の規範意識や思いやる心に関する質問で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。	・異学年交流を実施し、その後、手紙を書いて思いを伝えさせる。 ・年間計画に沿った道徳教育の実践に取り組むとともに、教育活動における心の教育の充実を職員が意識する。 ・人権 同和教育や平和学習を「いじめ防止・心を考える日」に合わせて全校で取り組む。	・学校評価アンケートにおいて、児童生徒の規範意識については86.2%、思いやる心については84.9%が肯定的に答えており、目標を達成することができた。 ・職員「命の大切さや思いやり等の気持ちを育てる指導を推進している」の項目で全ての職員が肯定的な回答をしている。年間を通して人権教室や担当者が話を行うなど、計画的な指導実践ができていた。	A	・学校で規律を守れていても、地域内での過ごし方には課題がある。自転車に乗る際のヘルメット、帰宅時間、挨拶など注意しても言うことを聞かない児童生徒がいる。規範意識が育っていないと感じることもある。	B	・学校で規律を守れていても、地域内での過ごし方には課題がある。自転車に乗る際のヘルメット、帰宅時間、挨拶など注意しても言うことを聞かない児童生徒がいる。規範意識が育っていないと感じることもある。	生活プロジェクト
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「何かあった時に学校に相談しやすい」と感じる児童生徒の割合を80%以上にする。 ○「いじめに対し、組織的に対応できている」と感じる職員の割合を90%以上にする。	○定期的な生活アンケートや教育相談等を行い、気になる児童生徒については職員間で情報共有を行う。 ・毎月10日の「いじめ防止・心を考える日」に合わせて、朝の時間に『いじめゼロ宣言』の読み上げ、毎月の視点に沿った活動を取り入れる。 ・職員研修やいじめ対策委員会を設定し、組織的にいじめ防止に取り組む。	・教職員は「芦刈親瀾校は、いじめに対し、組織的に対応する体制が整備されている」と思うので、全職員ができていないと感じてきた。しかし、児童生徒の「学校の先生は、自分が困った時などに相談しやすいと思う」は85.1%であり、目標を大きく下回る結果であった。改善に向けたさらなる手立てが必要である。	B	・職員「学校の先生は、自分が困った時などに相談しやすいと思う」は85.1%であり、目標を大きく下回る結果であった。改善に向けたさらなる手立てが必要である。	B	・職員「学校の先生は、自分が困った時などに相談しやすいと思う」は85.1%であり、目標を大きく下回る結果であった。改善に向けたさらなる手立てが必要である。	
	○小・中・学部がともに高め合い、進んで行動できる児童生徒の育成	○なかよしアンケートにおいて、「あいさつ」「掃除」の項目で達成率を上昇させる。 ○行事・活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、さらなる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を90%以上にする。	・小中あいさつ運動の実施 ・小中共通したそうじチェックシートを使った振り返りの実施 ・小中共通した掃除のやり方の確認 ・小中合同クレーン作戦の実施 ・中期ブロックの交流会の実施(7年生による6年生への中学部での生活についての説明)	・縦割り班でのあいさつ運動を行うことができ、「あいさつ」は71.1%から76.6%上昇していた。「掃除」は65.7%から66.0%とほぼ同じ結果であり、自分たちの頑張りが感じられるよう手立てが必要である。 ・2学期末のクレーン作戦後、「小学生ががんばったことをできてよかった」「小学生のためになった」など、手伝いに行った中学生が有用感を感じたり、「小学生ががんばっているのを見て、もともとがんばろうと思った」などの感想をもっており、自己有用感の高まりが見られた。	B	・地域での挨拶も元気にしてほしい。 ・あいさつ運動を短期集中的に行うのではなく、地域やPTAの協力を得て計画的に実施することで、改善が図れるのではないかと。	B	・地域での挨拶も元気にしてほしい。 ・あいさつ運動を短期集中的に行うのではなく、地域やPTAの協力を得て計画的に実施することで、改善が図れるのではないかと。	
	○行事や活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、更なる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を80%以上にする。	○主要な行事の前に、オリエンテーションを行い、活動への意欲を高め、活動後にはその振り返りを行う。	・主要な行事の前に、オリエンテーションを行い、活動への意欲を高め、活動後にはその振り返りを行う。	・主要な行事の前に、オリエンテーションを行い、活動への意欲を高め、活動後にはその振り返りを行う。	A	・小中一貫校として、小学部と中学部が協働で行事を実施できるように、今後も取組を継続してほしい。コロナ禍が収束すれば、行事や取組を地域からも参観できるように、児童生徒の頑張りを承認することができる。	A	・小中一貫校として、小学部と中学部が協働で行事を実施できるように、今後も取組を継続してほしい。コロナ禍が収束すれば、行事や取組を地域からも参観できるように、児童生徒の頑張りを承認することができる。	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○家庭教育指針で「朝ご飯をしっかり食べる」の項目の回答を年度当初より向上させる。	・全学年において、年1回以上栄養教諭が参画した食育の授業を行い、食への意識の向上を図る。 ・家庭教育指針を全学年で年3回行い、1回目結果をその後の指導に反映させる。 ・「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。	・11月に実施した調査では「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は、小学生87%、中学生98%で減少していた。 ・家庭教育指針の取組を年3回(5月・9月・12月)行った。12月の取組では、「朝ごはんを毎日しっかり食べる」児童生徒が88%であり、5月より増えた。「朝ごはんを食べない日がある」児童生徒は5月は7名であったが、12月は3名と減少した。 ・2学期は4学期で栄養教諭と連携した食に関する指導を行った。	B	・今後も取組を継続してほしい。	B	・今後も取組を継続してほしい。	
	○健康・衛生に対する意識の向上	○健康衛生チェックを行い、衛生に対する意識を年度当初より向上させる。	・通年で2回程度健康衛生チェックを行い、基本的衛生習慣の定着を図る。 ・毎回のチェック結果をグラフ化し、保健室前に掲示したり、保健だよりに掲載したりして、より意識を高める。 ・意識が低い児童生徒に対しては、個別に保健指導を行う。	・健康衛生チェックの全項目の合計が、小学部では1学期平均76人/日から2学期平均82人/日と増加した。中学部では1学期33人/日から2学期27人/日とわずかに減少したが、連続して忘れられた生徒が目立った。1学期終わりに減少傾向であったが、長期休み明けの増加が課題として残った。 ・中間評価の対策を行ったが意識向上につながらなかった。今後は、委員会活動を活発に行いクラスごとに対応していきたい。また、ハンカチ等の貸出票を活用するなど家庭と連携した活動を行ってきたい。	B	・職員「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は85%以上。食への意識の向上を図る。」「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。	B	・職員「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は85%以上。食への意識の向上を図る。」「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・小学部は毎週金曜日、中学部は月曜日を定時退勤日に設定し、実行を促す。 ・毎月、業務記録を把握し、1ヶ月で45時間、1年間で360時間以内の遵守を目標に、意識の向上と業務の効率化に取り組む。 ・会議の削減、ICT利活用の工夫改善を通し、効率的で効果的な業務改善を推進する。	・小中一貫校としての強みを生かし、小学部と中学部の職員が連携し、業務改善に努めることができた。 ・各種会議における共通理解や校務分掌業務を協働で取り組む事を通し、合理的な職務遂行に繋げることができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が9年目を迎えたが、職員の帰任、家族の感染による在宅等により、現場に欠員が生じたことがあった。他の職員への心身の負担増が心配された。 ・心身の健康管理については、工夫改善が必要である。	B	・「長期待ちは、45時間以内の働き方ができていてよい。 ・オーバーワークで職員にゆとりがない状況が心配。明日への準備や活力のため、時間外労働を減らすようにしてほしい。	B	・「長期待ちは、45時間以内の働き方ができていてよい。 ・オーバーワークで職員にゆとりがない状況が心配。明日への準備や活力のため、時間外労働を減らすようにしてほしい。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の充実・活性化	○プロジェクト部会の活性化や校内研究の充実を中心とした、小中一貫教育推進体制の充実	○「小中一貫による9年間の教育活動が充実している」と感じている保護者の割合を80%以上にする。 ○小中交流授業や小中一貫の取組が充実している」と感じる職員の割合を90%以上にする。	・3つのプロジェクトで、小中一貫教育に関する重点取組事項を設定し、全職員で共通理解を図って取り組む。 ・校内研において小中教職員相互の授業協力体制を整え、小中交流授業を実施する。 ・「学校だより」や学校HP等を活用し、小中一貫教育に関する情報を保護者や地域に発信する。	・小中合同の行事や小中交流授業など小中一貫の取組が充実していると感じている保護者の割合が92%、職員の割合が100%で目標を達成できた。児童生徒の参加意欲も81%と高かった。 ・小中教職員相互の授業協力体制が整い、TTやGTなど小中交流授業を計画的に実施できた。教育センターからの定期的な指導や個々の研修により授業改善が図られ、成果を上げることができた。	A	・アンケートの自由記述に見られるように、児童生徒の「小中交流をもっとやりたい!」をかなえてほしい。 ・小中合同の行事や小中交流授業は、取組の意義が感じられる。小中一貫校として今後も取組を強化してほしい。	A	・アンケートの自由記述に見られるように、児童生徒の「小中交流をもっとやりたい!」をかなえてほしい。 ・小中合同の行事や小中交流授業は、取組の意義が感じられる。小中一貫校として今後も取組を強化してほしい。	副校長
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上したと感じる教員を80%以上にする。	・特別支援に関する研修会を年間5回以上実施する。 ・ケース会議や情報共有の場を定期的に設定し、組織として対応する。	・特別支援に関する専門性が向上した教員93.1% ・全職員に対する研修会4回実施(クレーン作戦の児童・生徒への支援について、特別支援学級に在籍する児童の実態報告、Q-U研修2回) ・特別支援学級担任及び通常学級担任に対する研修 ・大学から講師を月1回招請(インクルーシブデザインに基づいた授業について)ケース会議4回 ・校内支援員会(同和部会) ・職員の特別支援教育に関する専門性と意識の向上が図れ、目標達成できた。	B	・今後も取組を継続してほしい。	B	・今後も取組を継続してほしい。	特別支援コーディネーター(小・中)
○コミュニティ・スクールの推進	○地域との交流や地域を生かした体験活動の充実	○「地域との交流や体験活動に積極的に参加している」と感じている児童生徒の割合を80%以上にする。 ○「学校の教育活動は地域との連携がなされている」と感じている保護者と職員の割合を80%以上にする。	・生活科・総合的な学習の時間で、地域(ひと・もの・こと)を学ぶ場を設定する。 ・地域との連携・交流を生かした活動を設定し、工夫して取り組む。 ・「学校だより」や学校HP等を活用し、地域連携に関する情報を保護者や地域に発信する。	・小中どの学年も、地域学習や地域との交流、地域を生かした体験活動を設定し取り組むことができたが、積極的に参加できた回答した児童生徒は73.8%で目標を達成できなかった。活動の内容や課題の持たせ方の工夫改善が必要である。 ・活動の様子を各種便りや新聞等で保護者や地域に紹介したり、ホームページ上に公開したりと、丁寧な周知ができた。「地域との連携がなされている」と感じている保護者は90%、職員は97%と目標を達成できた。	B	・地域コーディネーターが連絡を取るタイミングや学校の意図や内容をしっかりと細かく共有していきたい。 ・町づくり協議会に中学生の参加があり、地域の大人に交じて活発に意見交換ができてよかった。 ・コロナ禍で学校の取組を見聞する機会が少なくなったが、学校だよりやホームページなどにより、多くの情報を得られたことで、学校の様子がよく分かった。地域の公共機関等に掲示するなど情報発信を広げてみてほしい。	B	・地域コーディネーターが連絡を取るタイミングや学校の意図や内容をしっかりと細かく共有していきたい。 ・町づくり協議会に中学生の参加があり、地域の大人に交じて活発に意見交換ができてよかった。 ・コロナ禍で学校の取組を見聞する機会が少なくなったが、学校だよりやホームページなどにより、多くの情報を得られたことで、学校の様子がよく分かった。地域の公共機関等に掲示するなど情報発信を広げてみてほしい。	副校長

5 総合評価・次年度への展望	・学習状況調査等の結果において7割程度の学年・教科で伸びが見られたが、依然として課題が残った。次年度も授業力向上と学習規律の定着、家庭学習の充実により、学力向上を図る。 ・小中一貫教育については、校内研の充実により小中の協力体制が整った。小中合同の行事や活動、9年間を見通した学びの両面から小中一貫教育の充実を図ることができ、保護者や地域の理解も得られた。 ・いじめの早期発見、早期対応については、児童生徒に寄り添った教育相談や問題行動等に対する生徒指導力の向上を図る。
----------------	---

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育